

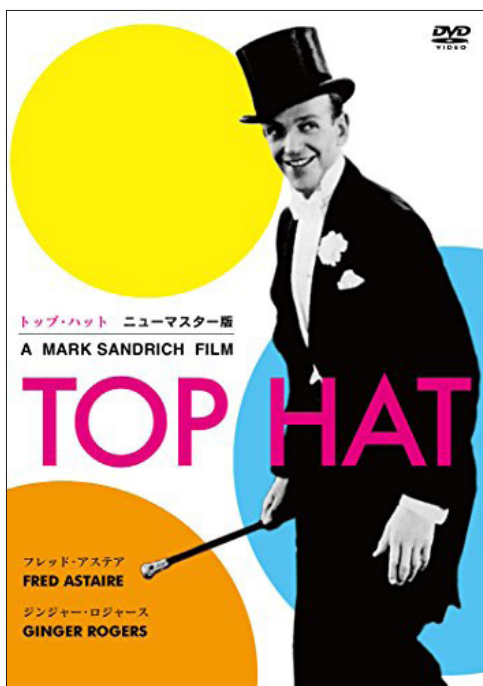
2016.1.21
vol.45

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品

トッポ・ハット



1月21日(木)

① 10:30 ~ 12:10

② 14:00 ~ 15:50

ロンドンに招かれたアメリカのダンス・スター、ジェリーが興業主ホーレスと共に滞在中のホテルに、ヴェニスで過ごすホーレスの妻マッジから、週末に彼に紹介したい女性がある旨の連絡が入る。気をよくした彼は部屋で一踊り。これがハメを外しすぎて、下の部屋に住むアメリカ娘のデールから苦情が…。

監督：マーク・サンドリッチ

原作・脚本：ドワイト・テイラー

出演：フレッド・アステア

ジンジャー・ロジャース

エドワード・エヴェレット・ホートン

H・プロデリック

製作：1936年アメリカ モノクロ

上映時間：99分

次年度上映予定(毎回木曜日)

- | | | |
|------|--------|-----------------|
| 第47回 | 4月21日 | 『アラン・ドロンのゾロ』 |
| 第48回 | 5月19日 | 『椿姫』 |
| 第49回 | 6月16日 | 『明日へのチケット』 |
| 第50回 | 8月4日 | 『シェーン』 |
| 第51回 | 9月15日 | 『スプレンドール』 |
| 第52回 | 10月27日 | 『マダム・イン・ニューヨーク』 |
| 第53回 | 12月15日 | 『素晴らしき哉、人生』 |
| 第54回 | 1月19日 | 『ジェニイの家』 |
| 第55回 | 2月16日 | 『会議は踊る』 |

『シェーン』と『マダム・イン・ニューヨーク』は図書館では所蔵していませんが、上映作品の選択肢を広げるため、劇場上映用のDVDをレンタルします。上映時には関連の図書の紹介をしますので、ご利用下さい。

『マダム・イン・ニューヨーク』は、男女共同参画班との共催となります。また次年度は、上映前に福祉関係のご案内もさせていただきます。合わせて、映画を見る機会に視野を広げていただけたらと思います。

※ 上映作品は変更になる場合があります。

※ 第3木曜日に限りませんのでご注意ください。

映画を読む 『トップ・ハット』

観終わる頃には、たいていの小さなストレスは忘れさせてくれる K.M.

今回の上映作品は、映画史上最高のダンシング・ペアとされるフレッド・アステアとジンジャー・ロジャース共演の、ミュージカル映画 10 本中の代表作です。ダンスに使用された 5 曲はすべて、「ホワイト・クリスマス」や「アレクサンダーズ・ラグタイム・バンド」などで有名なアーヴィング・バーリンの作曲で、音楽監督は『風と共に去りぬ』や『カサブランカ』など、300 本以上の映画音楽を手掛けたマックス・スタイナーです。

ストーリーは、ブロードウェイ・ダンサーのアステアとアメリカのモデル嬢のロジャースがロンドンで出会い、様々な誤解とすれ違いの末に結ばれるという他愛のないラブコメディですが、そのダンスシーンに対しては、キャスト、作詞・作曲、歌、編曲、振付、ダンス、カメラ、監督・等々、とてつもない芸術的才能が集中的に投入されており、ハリウッドの黄金時代の魅力が詰まった作品です。

アメリカのエンタメ専門誌「バラエティ」が、かつて「アメリカ映画史上もっともスイートなムービー」と書いたそうですが、私自身 DVD でこの作品を初めて観た時、理屈抜きでアステアとロジャースの時代を超越した至芸に惹きつけられ、ごく自然に映画を観る喜びと興奮がわいてくるのを禁じ得ませんでした。

この作品の素晴らしいダンスシーンに使われるミュージカル・ナンバーは下記の 5 曲です。

◆「No Strings(解き放されて)」

冒頭、アステアがロンドンのホテルの部屋で調子に乗って 1 人でタップを踏み、下の階のロジャースの目を覚ますシーン。壁、机、置物、当たるもの全てから、小気味よいアステア音を発生させるアステア流キックダンスがすごい。

◆「Isn't This a Lovely Day? (素敵な日じゃない?)」

ロンドンの公園の東屋で、乗馬姿のロジャースと馭者姿のアステアがデュエットするシーン。阿吽の呼吸で踊る二人の親密度が増していくさまが見事。

◆「Top Hat, White Tie and Tails (トップ・ハット)」

ロンドンの舞台で、アステアがトップハットの男達と踊りまくり、喝さいを浴びるシーン。銃を模したステッキで、男達を順に狙撃していく振付がユニーク。

◆「Cheek to Cheek (頬よせて)」

ヴェネツィアのリゾート地で、誤解が解けた二人が「君に頬寄せて踊れるなんて天国にいるようだ・・・」と歌い踊るシーン。「ヘブン、アイム、イン、ヘーブン ～」と続く名曲に乗って、二人がゆったりと、それでいてしっかり共振して踊る美しさ。至福の二人だけの世界。まさにダンスと映像で観る者に幸福感をもたらす極め付きのシーン。

◆「The Piccolino (ピッコリーノ)」

ヴェネツィアの夜明け、カーニバルのフィナーレ。美しいマスゲーム的集団ダンスに続き、二人の激しいデュエット。カット割り無しで激しく踊った後、踊りの続きの様に、ふわりと優雅にテーブルに腰掛けるアステアは隙が無い！ロジャースが歌うピッコリーノも魅力的。

最後に、1935 年製作の『トップ・ハット』が、「埋もれた名画」ではない証を。

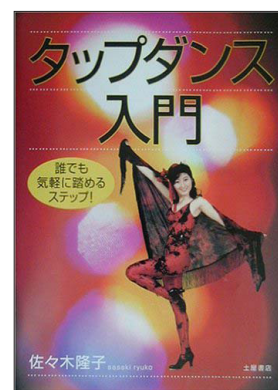
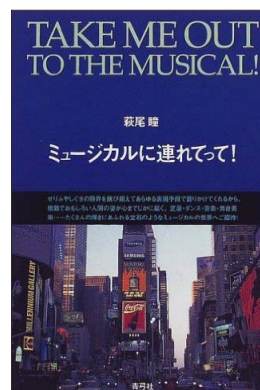
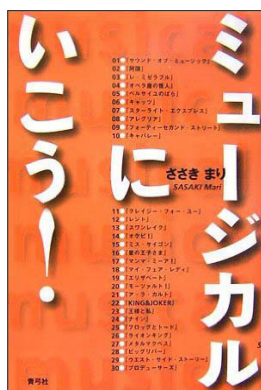
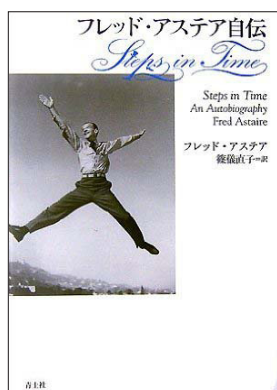
◆2011 年にこの映画の舞台化作品がロンドンで初演され、以後各地で人気ミュージカルとして上演されている。日本でも 2015 年「宝塚版」と「ロンドン版」が相次いで上演された。

◆ウディ・アレン監督の『カイロの紫のバラ (1985 年)』とスティーヴン・キング監督の『グリーンマイル (1996 年)』の重要シーンに、この映画の「Cheek to Cheek (頬よせて)」のシーケンスが用いられ、本作へのオマージュとされている。

◆この映画で使われたアーヴィング・バーリンの曲は 1935 年のヒット・チャートに揃ってランクされ大流行し、今日でもポップス、ダンスのスタンダード曲として演奏され続けている。



『フレッド・アステア自伝』	フレッド・アステア／著	青土社	778.253
『魅惑のミュージカル鑑賞入門』 人気の50作品を徹底ガイド	中島 薫／監修	世界文化社	775.4
『深読みミュージカル』 歌う家族、愛する身体	本橋 哲也／著	青土社	775.4
『知識ゼロからのミュージカル入門』	塩田 明弘／監修	幻冬舎	775.4
『プロが選んだはじめてのミュージカル映画』 萩尾瞳ベストセレクション50	萩尾 瞳／監修	近代映画社	778.2
『ミュージカル洋画ぼくの500本』	双葉 十三郎／著	文藝春秋	778.2
『ハリウッド・ミュージカル映画のすべて』	スタンリー・グリーン／著	音楽之友社	778.253
'S Wonderful "Musical" The Graphic Work	大山 恭彦／企画 編	開発社	778.2
知ってるようで知らないミュージカルおもしろ 雑学事典	石原 隆司／著	ヤマハミュージック クメディア	775.4
ミュージカルに連れてって！	萩尾 瞳／著	青弓社	775.4
ミュージカルにいこう！	ささき まり／著	青弓社	775.4
タップダンス入門 誰でも気軽に踏めるステップ！	佐々木 隆子／著	土屋書店	769



インフォメーション

第46回『雨の朝パリに死す』

2月18日(木)

① 10:30 ~ 12:30

② 14:00 ~ 16:00



終戦の日のパリで出会った元従軍記者で作家の卵チャールズと美しい娘ヘレン。やがて劇的にゴールインするが、ヘレンの姉マリオンもチャールズを愛していたが、傷心を抱えたままクロードと結婚。妹夫婦には娘ヴィッキーが誕生したが、奔放なヘレンは毎夜遊び歩き、家に寄りつかない。そのうち、夫も酒に溺れるようになる。ヘレンは病床に就きやがて死に、娘は姉夫婦のもとで育てられることに……。

監督：リチャード・ブルックス

出演：エリザベス・テイラー

ヴァン・ジョンソン

ドナ・リード

ウォルター・ピジョン

製作：1955年アメリカ カラー

上映時間：116分

サロン・ド・シネマ

ホールホワイエにて

寄付金でお茶菓子を提供します。

映画の上映前にご利用ください。

午後の部の上映終了後に、2階の活動コーナーにおきましてスタッフの打合せをしています。上映会の運営に関心のある方は、お気軽にご参加下さい。

『群衆』感想(一部)

- ・一人の小さな独力が大きな組織の中でつぶされることは当たり前。でも、真実の力と愛がそれを打ち破ることがあるんだと感じました。
- ・情報は意図的に作られることがある。マスコミがすべて正しいとは限らない。よく見るのが大切。
- ・隣人を愛せよ。なかなかできないことです。昔から隣人とはケンカが絶えない小さな人間多し。
- ・善人ジョン・ドゥー、あんな人間が何時の時代にも必要なことが分ります。今の時代こそ。
- ・太平洋戦争開戦の年に作成された映画と知り、なんと皮肉なんだろうかととても悲しく思いました。
- ・とてもいい映画でした。
"自由は死なない" "Never give up"
- ・現在にも通じるものがあって、人間の心理は変わらないと思いました。
- ・ヒトラーから続く道。そして現在へも。
- ・キリスト教の精神のような、ありがとうございます。
- ・「真理は永久に！」をつくづく感じました。私の7歳の時の作品でした。感動!!
- ・偽物が本物になるまで、世の強い者の打算が群衆の思いか、などが描かれていてよかったです。
- ・作品すべてが最高です。本物は強いですね!
- ・ゲーリー・クーパーの若い時の映画楽しかった。
- ・昔の名作が観られて新鮮な驚きでした。
- ・知らなかった映画でしたが、涙が出て感動しました。
- ・よき時代の映画でした。現在はあまりにもロマンがない映画ばかりのハリウッド!
- ・クリスマスにピッタリのとても良いお話です。
- ・ジョン・ドゥーが最後の彼女を抱いて去っていくところが素敵でした。ホワイト・クリスマス!
- ・泣けるラストシーン 感動しました。有難う!!

「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター 受付中! 年間: 1口 2,000円から

随時、ご寄付も
受け付けています。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口: 戸松 070-5333-1842